

驚き、桃の木、山椒の木

就職に関連して企業はゼミナールの内容などを質問するようである。就職課で相談を受ける学生の中にはこのゼミナールについて話すことが苦手な者がいる。

外国語学部の例をあげる。ゼミでスタインベックの作品を読んでいるというので、何処の国の何時頃の作家であるか？どのような作品があって、世界文学史上の位置づけは？と質問をしてみる。答えられないのである。ロシア語学科の学生の場合も同様で、ゴーゴリとゴーリキーの区別もつかない者がいる。トルストイもチェーホフも今の学生とは全く無縁の存在としても、せめて現代作家は知っているかと聞いてみると殆ど知らない。せめてゼミで取り上げられている作家の伝記や文学史の概説書くらいは読んでほしいものである。

いやいや、我が学部は「文学部」ではなく「語学部」なのであるぞ、という向きもあるが、学んでいる言語を母国語とする人々の住む国の歴史、地理、社会、文化などの概要は知って欲しいものだ。お仕着せでなく自分が好きな分野の本を乱読してみたらどうか。「車が好き」、「料理が好き」、「旅行が好き」というのであれば、その分野の原書を掻き集めて読むことがどんなに楽しいことか。

現に「オートバイ」が好きですきでたまらないので、と言って、その関係の日本の雑誌をポロポロになるまで読みまくっている者がいる。それを「学んでいる外国語」で読むことを薦めたい。「この分野は俺に任せてくれ」と言えるものを持って欲しいものである。

「英語を生かして就職したい」「ロシア語を生かして就職したい」。当然の願である。だが社会で通用するレベルかが問われる。教科書以外で読んだ原書の厚さは何センチか聞けば、殆ど読んでいない。英字新聞、ロシア語新聞を読んでいる学生も殆どいない。

これだけの教員スタッフと図書館の書籍・新聞・雑誌に恵まれているのにもったいない話である。

(学生部就職課長 佐藤 碩夫)

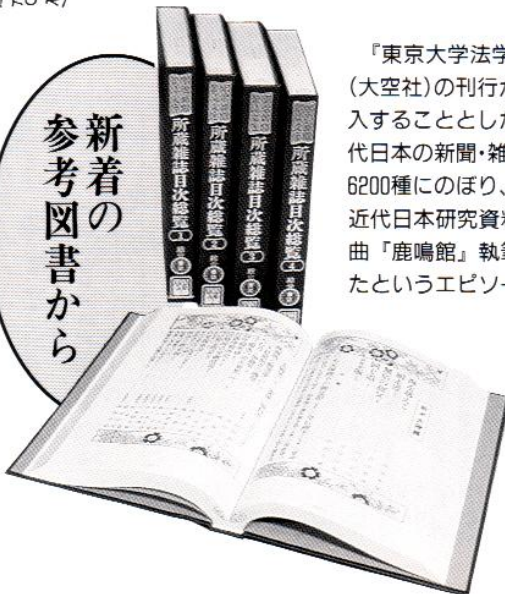


「現代用語の基礎知識1993」(R031-G34-E93)「若者用語の解説」によれば、「ら(る)」とは、「言いつける」、「警告する」とあります。



CHI KU RI

新着の
参考図書から



『東京大学法学部附属 明治新聞雑誌文庫所蔵雑誌目次総覧』全150巻(大空社)の刊行が開始され、図書館ではこれを校友会文庫として継続購入することとした。明治新聞雑誌文庫はこれまで六十余年にわたって近代日本の新聞・雑誌類を発掘、蒐集してきた。その数、新聞約1900種、雑誌6200種にのぼり、多様性と希少性において類を見ない内容となっている。近代日本研究資料の宝庫と言っても過言ではない。作家三島由紀夫が戯曲『鹿鳴館』執筆にあたり、明治期の貴族に関する取材を同文庫で行ったというエピソードも伝わっている。

ここで紹介する『目次総覧』には所蔵雑誌約6200種、20万冊のうちから7万冊程度が選択・収録される予定。「総合編」「哲学思想編」等、主題毎にまとめられ、雑誌別著者名索引が付く。年間5回の配本で5年間かけて完結する、非常に大きなコレクションで、校友会文庫に新たな魅力が加わることになった。是非利用してみて下さい。(中野直春)